

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



“テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

「マングローブ」ダイジェスト版 第6回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

社長は「妖怪」の長男だった

しかし、松崎は03年頃からぶつりと、今帰仁村の別荘に姿を見せなくなった。「なんでも宮古島に別荘を新しく建てたので、そっちを利用するようになったとのことでした。その代わりに今度は、松崎さんの息子さんがお供を二人従えてやってきたのです。息子さんはお供の人から『社長』と呼ばれていたのですが、名刺を見て初めて『さつき企画』だと知ったのです。別荘をビジネスに活用し、宿泊客に料理を出す構想があるそうだ」（地元住民）

さつき企画の登記簿によると、たしかに松崎篤は2000年3月から同社の取締役就き、01年6月には代表取締役に就任している。...つまり松崎は、自分の会社を息子に継がせたのである。政治家や資産家が、親の資産や社会的な立場を「世襲」することは、まああることだ。が、**「労働運動家」が息子に組織を継がせるなど、聞いたことがない。まさに「組合私物化の極み」というほかない。**...

「篤の職業は自称『ミュージシャン』です。たいして才能があるとは思えませんが、取り巻き連中は松崎に気に入られるため、JR総連や加盟単組の組合歌を次々と篤に作曲させたのです。こういった組合歌のCDはさつき企画を通じて組合員に売りつけられており、一般組合員からは大響響を買っていました。ちなみに93年2月に行われた篤夫妻の結婚式には、松崎配下の革マル派秘密組織『マングローブ』の複数のメンバーとともに、JR東日本の松田副社長（当時）や山之内副社長（当時）ら、会社幹部が出席していた。たかが一労組幹部の息子の結婚式に、その社の最高幹部が出席するなど、一般の会社からすれば、きわめて異例のことです」（元東労組役員）

「さつき企画はめざましい業績をあげました。当然ですよ。東労組組合員は約4万9000人。松崎怖さに皆、いやでも買いますから。営業活動はまったく知らない『伝票会社』なんです。私もかつては『解雇者の再雇用先』という会社設立の趣旨に賛同し、プロポリス、ウコン、コナコーヒーを必死になって売りました。後に原価を知って唾然としたんですが、ボロ儲けなわけですよ。販売価格5000円のプロポリスの原価が、実は600円だったりとかね。しかもボロ儲けにもかかわらず、収支が不透明なわけですよ。一説によると篤の給料が年間2000万円で、何もしていない奥さんの給料も800万円といわれていましたし、営業活動なんて知らないはずなのに営業車（外車）を購入していました」（阿部克幸氏 = 当時、さつき企画取締役）

かくの如く、さつき企画が松崎の「一億円超」の資産を構築した錬金術のツールになっているのは間違いのないであろう。まさに親子揃って組合を喰いモノにしてきたわけだ。**その後、なぜか別荘のビジネス利用の計画は立ち消えとなり、篤もお供の方もピタッと沖縄に来なくなったという。それもそのはず、その年の末、篤はさつき企画からだけでなく、日本からも姿をくらました。**

【マングローブ（講談社）P.98～P.103】